

宮沢賢治記念館通信

発行 〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36

宮沢賢治記念館

☎ (0198) 31-2319

☎ (0198) 31-2320

宮沢賢治の「心象世界」

リニューアルした 宮沢賢治記念館



「導入展示」の様子

..... 宮沢賢治記念館から

宮沢賢治記念館は、賢治没後50周年にあたる昭和57年9月21日に開館し、今年で33年目を迎えています。

昨年12月1日から、宮沢賢治記念館はリニューアルオープンに向けて休館しておりますが、休館中に九州からの旅行者がせっかく東北地方を旅行中に花巻まで足を伸ばし、是非宮沢賢治記念館に行ってみたくて思っていたが、休館中と聞いて非常に残念に思ったこと、この冬友達を連れて記念館に行こうと考えていたが、インターネットで休館していることを知り、途方にくれていること、休館しているのは知っているが、どうしても賢治記念館を外からでも見たくて来ましたというお客様等たくさんのお話が耳に入ってきました。

いかに、宮沢賢治がたくさんの全国の方々に愛されているかということを実証していると思います。普通、どんなに有名な人でも、没後10年もすると、忘れられてしまい、本屋に、本も置かれなくなる傾向があります。しかし、宮沢賢治に関する本は今でも置かれており、多くの人々に読まれています。

宮沢賢治記念館の大きな特色として、リピーターのお客様が多いことがあげられると思います。

「記念館に何度来ても厭きません」「又、いつか記念館に来たいと思います」「来るたびに新しいことを発見できます」等たくさんの方が来館者ノートに書いてあります。記念館の運営に関わっている一人としてこんなにうれしいことはありません。

リニューアルに際し監修者として宮沢賢治学会イーハトーブセンターの代表理事 栗原 敦 氏、宮澤 和樹 氏、杉浦 静 氏、望月 善次 氏、斉藤 征義 氏、岩田 安正 氏や専門的分野のアドバイザーの方々をお願いし、初心者から賢治研究者まで楽しんで、何度でも来館したくなり、来館するたびに新しい発見の出来る記念館として、お客様に満足していただける施設になることを確信しているところでございます。

花巻市では、4月25日をオープンの日を設定し、全国の賢治ファンに喜んでもらえる施設として新たなスタートを切ります。今後とも宮沢賢治記念館を末永く愛していただけましたことを心よりお願い申し上げます。

宮沢賢治記念館リニューアルオープンに向けて

リニューアル監修者 栗原 敦



宮沢賢治記念館のリニューアル計画が具体化したことを聞いたのは、一昨年春のころです。設立以来三十年ほど経って初めての、本格的なリニューアルですから、時代とともに成長する新しい展示のあり方を積極的に生かすことが欠かせません。しかも、同時に、設立の際の原点を確認し、個人の名を冠した記念館としての根本精神にもとることのない計画であるように心しなければならぬと感じました。

当初は、リニューアルに関する有識者懇談会といった形で、全般的な留意点や重要と考えられる問題点に意見を述べ、議論を重ねるばかりの時間がひとしきり続きましたが、展示監修者の一員として参加することになって以後、宮沢賢治学会イーハトーブセンターの代表理事（任期中、姉妹館である宮沢賢治イーハトーブ館長兼任）でもある立場から、上記した二点を踏まえて、内容の具体化のこまごまに微力を尽くしてまいりました。

記念館を設立する際の基本精神を振り返るためには、花巻市教育委員会がまとめた「宮沢賢治記念館建設報告書」が残されていて、好適です。その中に「展示基本構想」が収録されており、冒頭には

- 宮沢賢治の全体像を追求して、論理的、構造的に表現するようにする。
- 表現を平易にして、視覚化を図り、新しい技術を利用する。
- 宮沢賢治自身の作品や記述に即して、イメージの固定化を避けた客観的な事実を提示する。

とあり、さらに、これを踏まえて、メイン・テーマとして

- ◇ 宮沢賢治の考えの基底にあるとみられる“太初より未来永遠に至る、時空の大連鎖”に留意する。
- ◇ “ドリームランドとしての日本岩手県”にふさわしいものにする。

がまとめられていました。

今回のリニューアル計画には、建物の全面的な増改築は行わず、既存の規模によるという条件の

下で、しかし、この間に必要となった、展示施設の再構築と展示内容の修訂や増補・再編成が求められたわけですから、いま振り返っても、清新で、適切な設立時の原則やメインテーマは、実際、欠かすことの出来ない拠り所となりました。

なぜなら、宮沢賢治をめぐる人びとの関心は、この間も次々と新しい展開と深化を積み重ねてきました。賢治自身の示した多方面にわたる活動の拡がり、その表現の多様さ、奥深さがもたらす力のゆえなのですが、もしそれら全てに対応しようとしたら、来場者の一人一人、論議の一つ一つにあわせた無限の多様性を要することでしょう。仮に、賢しらな解釈にゆだねれば、尊く、深遠な本質を、安易なわかりやすさでねじ曲げているに過ぎない誤りも生じかねません。

宮沢賢治ほど、深く自己を問い詰めた人は稀でしょう。けれども、いまここにある自己は、限られた現実的な自己であるとともに、無限の過去から無窮遠の彼方に続く諸々の関係の結び目のごとき現象であって、その探究はそのまま人として生きる行為によって問い返され、かつ他者や生命や宇宙の生成の本質とも重なり、ついには自己を越えたものと受けとめたのではないのでしょうか。そのゆえにこそ、奉仕も、献身も、楽しさへの誘いも、そして書くことが生きることであるような表現行為も保ち続けられたのではないのでしょうか。しかし、こんな説明もまた、私の賢しらな解釈の一端でしかないのだと思われまます。

ただただ、来場するすべての人びとそれぞれが、それぞれの思いと感受性で、宮沢賢治自身の作品や記述に即して出会って貰える、そういう機会になってくれればと願いながら、アドバイザーの皆さんの協力を仰ぎつつ、内容の整備に努めた次第です。

リニューアルの理念と見どころ

リニューアル監修者 杉浦 静



2014年8月、宮沢賢治学会イーハトーブセンターの夏季特設セミナーは「宮沢賢治記念館その設立の原点に学ぶ」というタイトルで開催され、記念館の設立経緯や、どのような基本理念に基づいて展示内容が決定・

作成されていたのか、などを振り返りました。

この際に代表理事の栗原さんによって整理された設立時の基本理念は、「○宮沢賢治の全体像を追求して、論理的、構造的に表現するように努めること。／○表現を平易にして、視覚化を図り、新しい技術を利用する。／○宮沢賢治自身の作品や記述に即して、イメージの固定化を避けた客観的な事実を提示する。」というものでした。記念館リニューアルの監修者会議との共同作業のような、セミナーの企画でしたが、ここであらためて確認された基本理念が、今回のリニューアルの展示の方向を決定づけたと行っても過言ではなかったと思います。ここから、リニューアルの作業はさらに急ピッチで進んで行くことになったのですから。私自身、ようやく足場が固まったように感じました。

今回の展示リニューアルで特に注目していただきたいのは、「まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう」という農民芸術概論綱要の一節を使った長いタイトルのコーナーの新設です。賢治さんが農学校の先生や羅須地人協会の指導者として若い人たちに教育的に関わっていたのはよく知られていることですが、知識や技術ばかりでなく、様々な事柄を、学び、教え、教わり、伝えるといった相互的活動のなかにこそ、みんなの未来を切り開く力があるのだという賢治さんの思いを見てみてください。

学芸員配置と花巻市民の本気度

リニューアル監修者 望月善次



花巻市における宮沢賢治顕彰は、全国でも最も成功しているものの一つである。

まず、このことを成し遂げている花巻市民に敬意を表したい。

この成功事例の上に何を加えるべきであり、その為にはどう

すべきかが問題である。

宮沢賢治記念館リニューアル問題も、この論点の中の一つであり、それ以外ではない。筆者が具体的に提案することは次の二つである。

一つは、宮沢賢治記念館設立時における宮澤清六見解を（宮澤家との連携のもとに）正統的に継承することである。かけがえのない賢治の原稿への対処なども含め、このことの実現の核心は、それに相応しい人材を「学芸員」として迎えられる

か否かである。

もう一つは、花巻市民の本気度である。

冒頭にも述べたように、花巻市の宮沢賢治顕彰は、成功事例として位置付けられるわけであるから、そこからの発展には一層の覚悟、一層の工夫が必要である。

筆者などが関わっている宮沢賢治学会イーハトーブセンターの場合で言えば、全国的な研究者の集結とその研究者と花巻市民との連携問題である。研究者の側からも、花巻市民の側からも改善・工夫の一步を踏み出さねばなるまい。宮沢賢治記念館リニューアルが、こうした議論に一石を投ずることができてこそリニューアルは意味を持つのである。

宮沢賢治記念館リニューアルに思うこと

リニューアル監修者 宮澤和樹



記念館が開館して早30有余年。私が高校3年生の時でした。祖父清六、堀尾青史さん、平賀昌美さんなど、今は亡き方々が懸命になって良い館を造ろうと奮闘されている姿が思い出されます。

私にとって賢治さんと祖父がほぼ同一人物化してきたのもこの頃だったように思います。よく祖父は賢治さん、トシさん、政次郎翁、イチさん、そして高村光太郎先生のことを話してくれました。その中でも特に印象的だったのは、昭和20年に光太郎先生が東京大空襲で、家、アトリエが焼けてしまい、花巻の宮澤の家に疎開してきたときに祖父に言った話です。

「花巻は確かに田舎です。でも今は日本中何処が空襲にあってもおかしくありません。是非防空壕を作ったほうが良いでしょう。」

光太郎先生はこう仰ったそうです。祖父はすぐに裏庭に防空壕を掘り、いざというときに大事な物を運び込める準備が出来たのだそうです。その大事な物が賢治さんの作品原稿や遺書、手帳だったのです。そして、同年8月10日に花巻は空襲にあい家族は郊外に避難し祖父は防空壕に残ったそうです。どんどん周りが焼け防空壕の扉も焼けてきて備蓄していた醤油をかけ味噌を扉に塗って何とか火が入ってこないようにしたそうです。その時は本当にもうだめだと思ったと話していました。

この話を祖父から聞いたときの私の衝撃は大きく強烈に印象に残っています。そしてこの話は自分が伝えていかなければならないのではないかという使命感を覚えたのです。

光太郎先生のこのアドバイス、祖父の原稿を守る行動が無ければ今記念館の収蔵庫に収まっている作品原稿群は残らなかったのです。そしてそれは、当時活字になっていた作品しか私達は読むことが出来なかったということなのです。祖父が命がけで守った原稿でした。

今回の宮沢賢治記念館リニューアルは内容は先人達が残した物を踏襲しながらも新しく解ったことや現代で出来る技術で見せる工夫がなされていると考えます。そしてこの記念館の根本になっている作品原稿の保存、管理を今出来る限りの技術と工夫で100年、200年先の人達に残す工夫を検討していかなければいけないと考えるのです。

賢治の「風光」という数式

リニューアル監修者 斉藤 征義



「賢治が呼ぶのか、よく奇特で奇態な方々が現われます。」と実弟清六さんがおっしゃる。

記念館が建つばかりとなった当時、新潟大学教授の斎藤文一さんもその一人で、童話「銀河鉄道の夜」を数式によって解いていくのである。温和な口調にくらべ、黒板に連記されていくチョークの音が激しく、数字の群はまるで星座になっていくようだった。

記念館の中央に設けられた「大銀河系図ドーム」は、氏のアイデアときく。直径6メートルのドームには全銀河と5等級までの星1200個が示され、星座20個、星雲、星団27個に名まえが記されていて、北極星から南十字星まで見える「銀河鉄道の夜」の空間を眺望できる。まさにぜい沢なプラネタリウムだった。そして賢治の考えやめざそうとした世界が、このドームから想像されただろう。

栗原敦、杉浦静、望月善次、岩田安広、宮澤和樹さんら、このたびの展示リニューアル監修委員が、幾度も検討を重ねたのも、このドームの存在と価値観だった。

ここに賢治の心象世界を、新たな検索映像装置によって描き出す、という試みは、実に難しいことだが、賢治の世界により深く接し、追体験がで

きるのではないか。「宙・芸術・科学・農・祈」の切り口から映しだされる花巻の風土と資料は、おそらく賢治の時空の大連続を感じさせるものだろう。多くの未完成稿とおびただしい手入れ、修正稿が示すように、賢治の世界の数式に解答がないことも。

監修者の一員として

リニューアル監修者 岩田 安正



宮沢賢治記念館が開館して32年、北東北の辺地花巻にあって、異例とも言える来館者の実績を残し、その初代記念館としての使命を終えることになりました。

賢治没して80年。

今や国内はもとより、世界に広がる作品世界や流星の光跡のようなその生涯は、向後、一層の輝きを放つものと思われまふ。(一財)宮沢賢治記念会は賢治記念館設立の母体となった団体であり、一貫して賢治の顕彰・普及活動に努めて参っております。依って、この度の花巻市による展示の全面リニューアル事業に深く関心を寄せ、一層親しまれる記念館に生まれ変わることを期待しているところです。

この度、地元代表の監修者として、重い荷を背負って参りましたが、回を重ねた会議を通して、新装成った賢治記念館の中心的な展示をご紹介したいと思います。

従来、記念館の中心に設置されていた「大銀河系ドーム」(画期的な宇宙空間の表現であった)は改修され、そこに多面的な人格・宮沢賢治を象徴する映像が、最新の展示技法を駆使して表現されております。

『宙(そら)・芸術・科学・農・祈(いのり)』の、五つの心象的世界です。これが監修者会議の中で、最も入念な検討が加えられた箇所と言えます。どうか、じっくりと観賞し、楽しみ、そこから宮沢賢治の心象世界を感じ取っていただきたいと思ひます。

ふり返って、昨年6月第一回の会議以降、限られた期間の中で精力的に進められた監修という仕事に参加させていただいた光栄に感謝すると共に、その高度な内容の討議に有用な提言をなし得なかったことを今になって後悔しているところです。

終わりに、今回リニューアルされ、生まれ変わった宮沢賢治記念館が、一層人々から愛され、その新たな歴史に輝かしい実績が刻まれていくことを心からご祈念致します。

◆ ご 寄 稿 ◆

うずのしゅげを日本中に!!

宮沢賢治研究者・カメラマン 赤田 秀子



「おきなぐさの黒朱子の花びら、青じろいやはり銀びろうどの刻みのある葉、それから六月のつやつや光る冠毛がみなはっきりと眼にうかびます。」宮沢賢治が「うずのしゅげ」とやさしく呼び、愛したこの野草はかつ

て日本のどこでも普通に見られる植物だった。しかし、いまでは保護されている自生地以外では滅多に見られない。環境庁のレッドデータブックでは「絶滅危惧種Ⅱ」に指定されている。作品の舞台となったくらかげ山や西根山の麓でも翁草の姿はない。早春、宮沢賢治記念館を訪れた人は南斜花壇の側道にひっそりと咲く翁草に目をとめただろうか。実はこれは翁草の魅力に憑かれたある人からの無言の贈り物である。

7、8年前だが、その頃の私は「私の下ノ畑」と称して、近くの市民農園を借りて賢治作品に出てくるチーゼルやペンステモン、ポンテローザやギンドロなどの植物や野菜を育てていた。ただ翁草はうまく育たなかった。育て方を調べていたときに、翁草だけを研究し栽培している人がいるというので、郷里へ帰る途中にそこを訪ねた。その街の駅員無人の小さな駅で、ほとんど、私は啞然とした。「これはなんじゃい！」上信電鉄の南蛇井

(ナンジャイ) 駅。駅構内の廃線となった線路を覆い尽くすように翁草が咲いたのである。



若き日の賢治の短歌に「おきな草丘のなだらの夕陽にあさましきまでむらがりけり」(歌稿B 321) という歌があるが、まさに賢治の作品世界に迷い込んだかのような気がした。駅からその人を訪ね、敷地中に翁草の苗が並んでいるお住まい

で、いろいろ話を聞き、ますます私は驚いた。

一何十年ぶりかで故郷に帰ったら、そこはすっかり変わっていた。子どもの頃、そこらじゅうに咲いていた翁草が庭の隅に一株だけ残っていた。長年連れ添って、一緒に故郷の地を踏んだ家内が「あの花がかわいい。」と言ったんだ。—

その人は、老後を故郷で悠々自適で過ごそうと決めていたのに、その一言で翁草復活事業を起し、夢中になった。日本中をかつての子どもの頃の風景に戻したいという思いに燃え、わずかばかり残っていた株から種子を集め、栽培し、試行錯誤を重ね、何年もかかって、ようやくたくさんの株を育てることができるようになった。老人ホームや少年院、小学校などの公共施設、近隣の公園や山野にも寄付して植栽した。南蛇井駅にもプランターに植栽した翁草を寄付したところ、その種子が飛び、線路際で着床して、次々と株が増えたという。10年になるという。1985年の日航機墜落事故のあった御巢鷹山の慰霊地周辺にも植栽した。ハイカーに人気の近くの神成山や丹生湖畔遊歩道にも植栽したのである。希望者には実費で頒布もしている。おかげで、このあたりではあちこちに翁草が咲くようになった。だが訪れる人の盗掘も後を絶たない。神成山は以前より株が減っているという。情けない話だ。翁草は牛蒡のように根が長く成長するので移植を嫌う。「盗る人はあわてて掘るものだから、根が切れてしまうんだ。持ち帰っても根づかないねえ。ほしい人には鉢植えのものをやるから掘ってくれるなど叫びたい。」という。

私は持参した賢治童話の絵本や物語を手渡し、賢治のことを熱く語った。すると、その人はそののち、宮沢賢治記念館に333鉢の翁草を贈ったというのである。なぜ、333鉢なのかと聞けば、「燦燦(さんさん)と咲くようにね。」と電話の向こうで、嬉しそうに笑っていた。そして、「私の下ノ畑」にもたくさんの翁草が届いた。私は友人や知人にも分け、自然観察のフィールドでもある水元公園の野草園や市川市の万葉植物園にも鉢を届けて、栽培を依頼した。その人と同様に、日本中あちこちで翁草が咲いたらいいなと願ったのはいうまでもない。

宮沢賢治は、翁草を愛して、素晴らしい詩や童話を残した。それを読んで翁草に心を寄せる人は多い。だが翁草そのものが絶滅したら、賢治も悲

しむだろう。賢治作品の存在を知らずして翁草を愛したその人は、今も淡々と翁草栽培を続けている。私には、賢治童話の中からひょいと、この世に飛び出してきた人のように思えるのである。

伊藤ちゑから見た賢治

宮沢賢治研究家 鈴木 守



意外なことに、『宮沢賢治と三人の女性』（森荘巳池著、人文書房）の中には次のようなことが述べられている。

それは、伊藤ちゑと宮沢賢治とを結びつけようとする記事を書こうとする著者森荘巳池に

してちゑは、

今後一切書かぬと指切りしてくださいませ。

早速六巻の私に関する記事、抜いて頂き度くふしてふして御願ひ申し上げます。

とか、

ちゑこを無理にあの人に結びつけて活字になさる事は、深い罪悪とさへ申し上げたい。

という哀願や批難を森宛書簡の中に書いてあるということが、である。

しかもそれだけではなく、同時代の「ある年」の10月29日付藤原嘉藤治宛のちゑ書簡中においても、

又、御願ひで御座居ます この御本の後に御附けになりました年表の昭和三年六月十三日の條り 大島に私をお訪ね下さいましたやうに出て居りますが宮澤さんはあのやうにいんぎんで嘘の無い方であられましたから 私共兄妹が秋^(註)花巻の御宅にお訪ねした時の御約束を御上京のみぎりお果たし遊ばしたと見るのが妥当で 従って誠におそれ入りますけれど あの御本を今後若し再版なさいますやうな場合は 何とか伊藤七雄を御訪ね下さいました事に御書き代へ頂きたく ふして御願ひ申し上げます というように、ちゑは嘉藤治に対しても似た様な懇願をしている。

したがってこれらのことから、ちゑは賢治と結びつけられることを頑なに拒絶していたということが否定できない。巷間、賢治が結婚したかった〈聖女〉ちゑと言われているのに何故だったのだろうか。

実は、当時、四谷鮫河橋には野口幽香と森島美

根が設立した『二葉保育園』が、新宿旭町には徳永恕が活躍した『同分園』がそれぞれあり、同園は寄附金を募ったりしながらそれらを基にしてスラム街の貧しい子女のために慈善の保育活動、セツルメントをしていた。ところが大正12年、あの関東大震災によって旭町の『分園』は焼失、鮫河橋の『本園』は火災を免れたものの大破損の被害を蒙ったという。

そのような大変な状況下にあった再建未だしの『二葉保育園』に、大正13年9月から勤務し始めた一人の岩手出身の女性がいた。他ならぬ伊藤ちゑその人である。ちなみに『同園八十五年史』によれば、ちゑは少なくとも大正13年9月～大正15年及び昭和3年～4年の間勤めたことが判る。もちろん、この在職期間の空白は兄七雄の看病の為に伊豆大島に行っていた期間と考えられる。

そして、萩原昌好氏の『宮沢賢治「修羅」への旅』によれば、同島の新聞『島之新聞』の昭和5年9月26日付記事の中には、

あはれな老人へ毎月五円づつ恵む若き女性
——伊藤千枝子

という見出しの記事があり、兄の看病のために同島に滞在していたちゑは、隣家の気の毒な老婆に何くれと世話を焼き、後に東京に戻って『二葉保育園』に復職してからもその老婆に毎月5円もの仕送りをし続けていたという内容の報道があるという。

ところで、昭和3年6月の大島訪問以前に花巻で賢治とちゑの「見合い」があったわけだが、実はこのことについて後にちゑは、『私へ××コ詩人と見合いたのよ』というような直截な表現を用いて深沢紅子に話していたという。このちゑのきつい一言をたまたま知ることができた私は当初、ちゑは「新しい女」だったと仄聞してただけに流石大胆な女性だなど面喰らったものだが、それは前述したような当時のちゑのストイックで献身的な生き方をそれまでの私が少しも知らなかったことによる誤解だった。

なぜなら、このような『二葉保育園』でスラム街の子女のためのセツルメント活動に我が身をなげうち、あるいはまた何の繋がりもない憐れな老婆に薄給から毎月送金していたという心優しい〈聖女〉の如きちゑからは、当時の賢治がどのように見えたかということ推考してみれば、その一つの可能性が浮かび上がってくるからである。

すなわち、佐藤竜一氏も主張するように、昭和3年6月の賢治の上京は「逃避行」であったと見ることができるから、そう捉えるとあくまでも理屈の上での話ではあるが、前述した事柄に対する次のような解釈がそれぞれ可能となる。

例えば、そのような心身の状態にあった賢治と大島で再会したちゑは賢治の「今」を見抜いてしまい、自分の価値観とは相容れない人であると受け止めた。ちなみに、そのようなちゑの認識の一つの現れが、先に述べたきつい一言であったと考えられる。

またそれゆえに、先の森宛書簡に、「あの頃私の

家ではあの方を私の結婚の対象として問題視してをりました」とちゑは書き記したと解釈できるし、その後、いくら森が賢治とちゑを結びつけようとしても頑なにそれを拒絶したのはちゑの矜持だったのだ、とも。

そして、もしこのような解釈の仕方が実はその真相であったと仮にしても、それは《創られた賢治から愛すべき真実の賢治》により近づくことであり、何ら悲しむべきことではないと私は思う。

<注> 伊藤七雄・ちゑが花巻を訪れた時期は「昭和3年の春」という説があるが、この書簡による限り、「昭和3年」でもないし「春」でもない。

読者の広場

私の宮沢賢治

賢治作品の語り手

岩手県花巻市 高橋 瑛至

昨年の暮れの12月6日、東京・八重洲ブックセンターで開催された『宮沢賢治の世界 レクチャー&朗読・音楽』を聴きに出かけた。

詩人の吉田文憲氏等3人の出演者の中でも私の注目は宮沢賢治作品の方言による語り手として精力的な活動を続けている野口田鶴子さん。盛岡出身、賢治の高校（盛岡一高）の後輩にあたる。オペラ研鑽のためのローマ留学中、イタリア古詩の朗読に開眼し、帰国後、賢治作品の朗読を手掛ける。その朗読には、賢治を生んだ風土や哀感と独

特なあたたかい味があると評価されている。これまでに、「賢治生誕百年祭」の童話村での出演をはじめ、東京・広尾・東江寺での定期公演など144回目の上演を数える。

この日、会場のギャラリーを埋めた約百人の聴衆とともに、野口さんのマイクを使わない、艶のあるのびやかな声で語る『銀河鉄道の夜』に聴き入り、心が洗われる至福の時を過ごした。公演終了後、会場の便を図ってくれた八重洲ブックセンター顧問の鈴木文彦君等、在京の高校同期生で野口さんの活躍と次の公演を期待し、ビールを傾けながら旧交を温めた。



大瀧詠一と風の又三郎

岩手県奥州市 高橋 晋

江刺出身のミュージシャン故・大瀧詠一氏は自身のHP等で、初めて見た映画を『風の又三郎』と記し、自身のことも転校が多かったことから又三郎と感じていたようです。

江刺、住田、遠野にまたがる種山ヶ原を舞台にした『風の又三郎』の最初の映画化は、戦前の昭和15年で島耕二が監督。2度目は昭和32年、教育映画として村山新治が監督しました。又三郎役は久保（山内）賢で、江刺などでロケされ、種山ヶ原でたくさんの馬と子供たちが戯れているシーンが記録されています。3度目は平成元年に映画化された伊藤俊也監督版。

ある時、私に大瀧氏からメールが届きました。

『戦前の島耕二版しかないと思っていたところに、高橋君のHPにて巡回上映用のものがあつたと知り、「これが私が最初に見た映画だったんだ!」と気がついた。』と言うものでした。

当時、村山新治版は市販されておらず、大瀧氏はメールの終わりにこのように記しました。

『「はっぴいえんど」の解散コンサートの日が9月21日。賢治の40回目の命日でした。これは“たまたま”ですが、『風街ろまん』は松本 隆が“春と修羅”をイメージしていたことや、そのことを深く考えずに私が“颱風”などという曲を作ってしまったりと・・・とにかく“宮沢賢治”とは無意識に糸が繋がっていたような気がします。』

そして、解散コンサートからほぼ40年後、大瀧氏は風野又三郎同様、北へ旅立ってしまいました。ご冥福をお祈り致します。

来館者の声

記帳ノートから

No. 325~341

福 島県から来ました。『銀河鉄道の夜』を見て賢治さんの作品が好きになりました。表現の仕方が他人とは違って、考えつかなかった表現の仕方だったのですごいなと思いました。今日は来られて良かったです。

神 奈川県から来ました。学生時代、私に現代国語で赤点ばかりとらせた賢治にクレームを言いに来ました。そしたら、ここに来たことで賢治が好きになりました。赤点ばかりとってごめんなさい。家に帰ったら「オツベルと象」でも読み返そうかな…。

50 才過ぎて来ました。私も農夫でしたが、平成23年3月11日より全てを無くし、自分の身一つとなりました。原子力災害により2年半各地を転々としました。私のイーハトーブには帰れなくなりました。次のイーハトーブを探す時期にここに来ました。

岡 山から来ました。被災した町を見て忘れないでおこう、何かできることを1つでめししようと参りました。生きているうちには、

何か人のため社会のために役立つ事をしたいと思います。賢治の思いは、私たちに大きな使命を感じさせてくれます。

長 野県から来ました。農業関係の仕事をしている者として、一生に1回は見ておきたいと思っていました。日頃、肥料に関わる指導をしています。賢治の書いた設計書を見て感動しました。

何 かを失うと心静かでいられなくなります。賢治さんの思いに比べれば大したことでもないのかな。小さいころはちょっと怖く面白い話をしてくれるお兄さん、10代のころは同じ思いを知っている詩人のお兄さん、そして今は、生きる道を指し示してくれる尊敬するお兄さん、ずっと共にいてくれた賢治さんの直筆にふれることができ嬉しです。

久 しぶりの岩手はやっぱり静かできれいな所です。賢治さんはいろんなきれいなものを感じて表現したんだなと思いました。私も、きれいなものにたくさん気づける心を持ちたいなと思いました。

31 年ぶり、開館直後以来の来館である。今日はあの頃のような感動は生まれなかもしれないと思っていた。しかし、『雨ニモマケズ』を見てから涙が止まらなくなった。また、『告別』という詩にも感動した。しばらく、賢治の詩が生きる指針になりそうだ。23年勤めた職を辞した今、今日ここを訪れて本当に良かった。

賢治記念館開催事業のお知らせ

■ 展示リニューアル式典・内覧会

期日 平成27年4月24日(金)

備考 関係者のみ

■ 展示リニューアルオープン

日時 平成27年4月25日(土)

8時30分(開館)~17時(閉館)

備考 展示リニューアルオープンを記念して、平成27年4月25日(土)・26日(日)は無料でご覧頂けます。

■ 特別企画展

『銀河鉄道の夜』はどう生まれたのか

— 草稿の謎にせまる —

期日 平成27年4月25日(土)~

会場 宮沢賢治記念館特別展示室



■ 関連イベント

展示リニューアル監修者・アドバイザーによるギャラリートーク

期日 5~8月 月1回開催予定

会場 宮沢賢治記念館

備考 詳細が決まり次第、花巻市ホームページ等でお知らせ致します。

※ 編集後記 ※

開館以来の大規模展示リニューアルです。今回は中心となった監修者の方々から、その思いや願いを寄せて頂きました。つきましては、どなたさまもどうか記念館にお入りいただき、新しい映像技術や研究成果を取り入れ、リニューアルされた賢治の世界を味わって頂きたいと存じます。また、ご多用のところにもかかわらずご寄稿頂いた方々には厚くお礼申し上げます。